

町田市バイオエネルギーセンター運営協議会（第5回）

議事要録

- 日時 2023年8月9日（水）14時00分～15時50分
- 場所 町田市バイオエネルギーセンター 管理棟3階会議室
- 出席 委員：高橋会長（もみじ台）、小林副会長（忠生中央）、福岡委員（忠生自然）、川畑委員（忠生忠霊地区）、鈴木委員（忠生四丁目）、藤田委員（下小山田）、佐藤委員（桜美林台）、大谷委員（函師）、林委員（馬駟）、鈴木委員（矢部町）、柏崎委員（清住平）
- 欠席 4名（代理出席 0名）
- 事務局 : 塩澤環境資源部長、徳重循環型施設担当部長
循環型施設管理課 : 林課長、田中担当課長、湯田係長、新美係長、吉池係長、黒須担当係長、石川主任、市川主任、阿曾主事、鎌田主任、東出主任
循環型施設整備課 : 田中課長、古屋担当課長、篠塚担当課長、原田担当係長、木村担当係長、稲村主任
コンサルタント : 株式会社日建設計
事業者 : 町田ハイトラスト株式会社、株式会社タクマ
- 傍聴者 0名
- 配布資料
次第
1月から6月までの運転状況について 【資料1】
バイオガス化施設のガスエンジン発電機の排ガス 【資料2】
エネルギー活用状況について（高効率発電） 【資料3】
苦情対応（報告） 【資料4】
専門委員会委員の学識経験者の選任について 【資料5】
町田市バイオエネルギーセンターより発生する排ガスを用いた
CO₂削減に向けた実証試験について 【資料6】
町田市資源循環型施設整備基本計画の改定について 【資料7】

1 開 会

○開会挨拶

塩澤環境資源部長から開会のあいさつを行った。

2 議 題

(1) 運転状況報告

① 1月から6月までの運転状況について

資料1を用い、事務局より、町田市バイオエネルギーセンター運営協議会の所掌事項である排ガスの測定結果など、運転状況について報告した。

(以下、主な質疑応答)

- ・ 林委員 臭気指数の基準値「10」とはどのようなものなのでしょうか。
- ・ 事務局 臭気指数とは臭気の強さを表す数値で、パネラー（臭気判定士）が臭袋法による嗅覚測定を行い、臭気を10倍希釈したとき、においを感じられなくなった場合、臭気指数が10となります。
- ・ 佐藤（早）委員 焼却炉排ガスの自動計測で、塩化水素が1号炉は3月に7.2ppm、2号炉は5月に7.8ppmと高くなっている理由は何ですか。
- ・ 事務局 ごみに含まれる塩素が燃焼すると塩化水素（酸性ガス）が発生するため、消石灰（アルカリ性薬剤）を噴霧して中和処理するのですが、自主規制値を下回るように排ガスの濃度を確認しながら噴霧量を変化させているためです。
- ・ 高橋会長 1炉当たりの処理能力129t/日能力は基本計画で定められた数値で、減量化・資源化に努めれば削減が実現でき、災害廃棄物分の余裕を見込んだ数値と認識しているが、6月は126～127t/日と上限に近い状況だったということですか。
- ・ 林課長 運転日数を示していませんが、休炉している日もあるため、2炉運転日を増やせばもう少し余裕はあるという状況です。
- ・ 小林副会長 処理能力以上のごみ量が排出されたので他の自治体に処理を委託したとのことですが、休止していたのかなど、どのような稼働状況なのでしょうか。
- ・ 林課長 町田市、多摩市、八王子市が構成市となっている多摩ニュータウン環境組合の処理区域となっている、市内一部の地域のごみを組合で処理しています。

現在、ごみ減量が進捗していないなど、処理能力よりごみ排出量が多いので、組合処理区域外からのごみの処理もお願いしている状況です。今後、減量等の努力を進めて組合の支援を終了できるように取り組みを継続しています。

- ・川畑委員 計画当初のごみを 40%減量するという目標が達成できていないのは、市行政だけの責任ではなく、市民のごみ減量を促す運動についても説明を加える必要があると思います。
- ・林課長 出前講座などの啓発活動やマイボトルキャンペーンなどを実施しており、今後も様々な対策により、減量目標を達成するよう取り組みを進めていきたいと考えています。

②バイオガス化施設のガスエンジン発電機の排ガス

資料2を用い、事務局より、バイオガス化施設のガスエンジン発電機の概要、排ガス測定結果について説明・報告した。

(以下、主な質疑応答)

- ・川畑委員 排ガス濃度が安定し、安堵できる状態になってきている。これを恒常化するため、空気比の制御などの作業手順や脱硝設備の点検・交換頻度など、安定していない号機もあるので比較し、研究して安定した状態を継続することを要望したいと思います。
- ・小林副会長 内燃機関なので各号機で特性があると思いますが、例えば No.1 発電機では運転初期に濃度が上昇し、中間期は安定して低く、後期に少し濃度が上昇するという傾向が認められます。何か対策を講じていますか。
- ・事務局 No.1 発電機は、ご指摘のような傾向が認められます。一方、No.3 発電機は立上げ後も安定しているなど、各号機で傾向が異なるので、継続して確認します。

③エネルギー活用状況について（高効率発電）

資料3を用い、事務局より、高効率発電の基準及び 2022 年度実績について説明・報告した。

(以下、主な質疑応答)

- ・高橋会長 発電効率の式について説明してください。

- ・事務局 分母はごみを燃やした時の発熱エネルギー、分子は発電に使用したエネルギーとした割合となります。

④苦情対応（報告）

資料4を用い、事務局より、工場設備の稼働に伴う騒音の苦情対応について報告した。
(質疑応答は特になし。)

(2) 専門委員会委員の学識経験者の選任について

資料5を用い、事務局より、専門委員会委員の選任について報告した。
(質疑応答は特になし。)

3 町田市からのお知らせ・町田市事務局からの連絡事項

(1) 町田市バイオエネルギーセンターより発生する排ガスをを用いた CO₂ 削減に向けた実証試験について

資料6を用い、事務局より、排ガス中の CO₂ を植物に吸収させて CO₂ の排出削減と有効利用を図る実証実験について説明した。

(以下、主な質疑応答)

- ・高橋会長 CO₂ 吸収率など数値目標または実績数値はあるのですか。
- ・林課長 実証試験規模イチゴ育成による CO₂ 排出削減量は約 150kg/年という見込み量は示していますが、実証試験では計測は行いません。
今回の実証実験では、エネルギー消費量が大きい CCUS 技術で排ガス中から回収した CO₂ を利用するのではなく、調整・処理した排ガスを直接利用する方法の実現可能性を確認することを目的としています。
- ・林委員 イチゴの栽培は水耕栽培ですか、土壌栽培ですか。
- ・林課長 水耕栽培と認識しています。

(2) 町田市資源循環型施設整備基本計画の改定について

資料7を用い、事務局より、町田市資源循環型施設整備基本計画の改定及び今後の資源ごみ処理・資源化における外部委託等について説明した。

(以下、主な質疑応答)

- ・ 高橋会長 ビン・カン処理施設を 2025 年までに撤去する計画を予定通り進めていただければと思います。
また、上小山田エリアの資源化施設については、いずれかの時期に抜本的に見直す必要があると思います。
- ・ 徳重担当部長 道路部も地元と積極的に協議を始めており、施設整備も連携し、一日でも早く進めていく努力を講じていきたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。
- ・ 藤田委員 道路部でも 579 号線の事業を進めることを明言されたので、スケジュールのとおり進めていただくよう、お願いしたいと思います。

(3) その他

事務局から旧清掃工場解体工事における熱中症対策のための作業時間変更について説明した。

第4回運営協議会の議事録は、委員の確認が得られたので、近日中にホームページに掲載する予定であることを報告した。

次回の運営協議会の開催予定として、2月の頃であることを伝えた。

4 閉 会

徳重担当部長から閉会のあいさつを行った。